

## 東北ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

- 日 時： [1日目] 平成 29 年 11 月 4 日（土） 13：00 ～ 17：30  
 [2日目] 平成 29 年 11 月 5 日（日） 9：00 ～ 12：30
- 会 場： 寒河江市「ホテルサンチェリー」
- 内 容： テーマ:つながるクラブ、つながる力、豊かな地域コミュニティの創造
- [1日目]
1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」
  2. フロアディスカッション「多様な組織・団体との連携・協働の実際」
- [2日目]
1. グループ別ディスカッション「自立的なクラブ運営を目指して」  
 ～クラブ運営予算規模（目標含）からグループ編成～

### 【概要】

総合型クラブが公益性の高い「社会的な仕組み」として発展することを狙いとし、「つながるクラブ、つながる力、豊かな地域コミュニティの創造」をテーマに開催しました。

一日目は、全ブロック共通のテーマをもとに、知的障がい者の受入に向けたプログラムを行い、その後「多様な組織・団体との連携・協働の実際」というそれぞれのキーワードに東北ブロック内から4クラブの代表による事例発表の後、全体でのディスカッションを行いました。

二日目は予算規模ごとに会場を分け、グループを編成し、個々のクラブが自立的な運営が出来るよう、情報共有や課題解決事例を取入れ、ディスカッションを実施しました。総数（実行委員、オブザーバー含む）145名のクラブ関係者が参加しました。

### 【内容】

#### [1日目]

#### 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

参加クラブにおける障がい者の受入に向けた取組を促進するため、今回は、山形県障がい者スポーツ協会より渡辺和子氏、山形県社会福祉事業団より鈴木一成氏をお招きし、高橋実行委員長の進行の元、情報提供や参加者によるワークを行いました。

渡辺氏からは、山形県障がい者スポーツ協会についての団体概要や、取組み事例を紹介いただき、鈴木氏からは、より具体的な知的障がい者との係り方について、説明やアドバイスをいただきました。

参加者からは、「障がい者に対しての運動への参加や、接し方についてヒントを得ることができたように思う」という声があった一方、「素晴らしいことだとは思いますが、障がい者に対し、相当な知識を持って対応しなければ、かなりのリスクを伴うと感じた」という声もあり、総合型クラブにおいて、今後、障がい者スポーツを取り入れていくにあたって、クラブとしてどんなことを知り、どんな対応が求められるのか等の課題を改めて見つめ直す良い機会となりました。



▶共通プログラムを受ける参加者の様子

## 「フロアディスカッション」―「多様な組織・団体との連携・協働の実際」

山形県内から2クラブ、東北ブロック内から2クラブの計4クラブから、それぞれのクラブが展開している事例発表を行いました。

- ・山形大学との連携事例：大岩 謙介氏(山形県・山形市体育協会スポーツクラブ)
- ・行政との連携事例(介護予防)：大沼 康子氏(山形県・寒河江市総合スポーツクラブ)
- ・企業との連携事例：西間木 由美氏(宮城県・一般社団法人ボディジャンプ)
- ・新たなプラットフォームの開拓(パークヨガ)：武田 由子氏

(福島県・NPO 法人生涯学習プロジェクトもとみや)

山形県内の取組みとして、山形大学地域教育文化学部と山形県村山地区クラブネットワークが協定の上、活動を展開している事例、行政と連携して介護予防事業に取り組む寒河江市総合スポーツクラブの事例、また東北ブロック内の取組みとして、宮城県のクラブからは企業との連携事例、福島県のクラブからは新たなスポットでの事業展開(パークヨガ)の事例発表があり、コーディネーターを介して全参加者を対象としたディスカッションを行いました。

東北ブロック内における、総合型クラブの様々な形態による連携、協働の形を共有することができ、総合型クラブの新しい活躍の場、展開の場へとつなげるヒントとなったように思います。



▶介護予防の事例を紹介する大沼氏



▶パークヨガの事例を紹介する武田氏

[2日目]

### グループ別ディスカッション

テーマ：自立的な運営を目指して ～運営予算規模(目標含)からグループ編成

①300万円未満：25名参加(A・B班)

事例発表者：佐久間 定樹氏(岩手県 唐丹すぽこんクラブ)

菅原 とり子氏(山形県 くしびきスポーツクラブ)

②300万円～800万円未満：35名参加(C・D・E班)

事例発表者：佐野 潤氏(秋田県 スポーレおおがた)

八鍬 博幸氏(山形県 Oh!蔵 SPORT)

③800万円以上：41名参加(F・G・H班)

事例発表者：鹿内 葵氏(青森県 NPO 法人スポネット弘前)

阿久津 光市氏(福島県 NPO 法人さめがわスポーツクラブ)

参加者からは、事前に上記3つの予算規模の希望グループを調査した上で、グループ編成を行いました。各グループ別に会場を分け、東北ブロック内で活動している各県のクラブアドバイザーが中心となりコーディネーター役を務め、ディスカッションを行いました。

予算規模ごとに、2つの事例発表をいただいた上でディスカッションを行い、次の少人数グループにおけるディスカッションへの流れを作りました。少人数グループでは実行委員等をファシリテーターに、全参加者が課題や解決事例等に関して発言できるよう配慮しました。

参加者からは「グループの人数をもう少し減らすことで、よりディスカッションができたのではないか」という意見のほか、「グループワークでは掘り下げた話し合いができて良かった」「財源を確保するための様々なやり方を聞くことができて良かった」等の声が挙げられていました。



▶予算別の事例発表の様子



▶グループディスカッションの様子

## まとめ

東北ブロックにおけるクラブネットワークは実働体としての機能を備えているとは言い難いですが、山形県クラブ連絡協議会として、山形県内クラブ関係者を運営スタッフに任命しネットワークアクションの開催準備にあたりました。

実際のクラブ関係者にも運営に携わってもらい、クラブが置かれている環境とかけ離れすぎないように、開催趣旨の補足、テーマ設定、地域課題解決に係るクラブや東北ブロック内の事例を取入れたフロアディスカッション、クラブ予算規模から自立的なクラブ運営に向けたグループ別ディスカッションプログラムが出来上がりました。

また、山形県の特別企画として、卓球バレー体験や早朝ノルディックウォーキングを企画し、1日目に開催された情報交換会では、普段、なかなか接点を持つ機会がない東北ブロック内の若手クラブ関係者同士の交流と発展を願い、若者参加者のテーブルを設けるなど工夫し、このネットワークアクションが一つのきっかけの場となるよう努めました。山形県内全クラブからの参加には至りませんでした。開催地区クラブからは多数の参加・協力を得ることができました。

今後の課題としては、開催県以外からの参加者数をどのように増やすかということであり。クラブ関係者の研修の場として、魅力あるプログラム作りと、また東北ブロック内のネットワーク充実に向けての創意工夫が必要であると思われます。